

花実の森のササユリ 種から“里親育苗”を試行



毎年6月になれば清楚な花を咲かせ楽しませてくれる“花実の森”的ササユリたち。100輪はあるだろうが最近は減少傾向ではないかと気がかりなところ。自然の中で子孫を継承していく生存率の厳しさを知らされる。



そこで、今花実の森にたくさん自生しているササユリを絶やさないように、少しでも増えていくようにとの思いから、花実の森の中に育苗ポットに種をまき、林内に設置してみましたが、活動日以外の世話がゆき届かず、特に夏季の水不足などから枯渇してしまう状況を繰り返してきました。

そこで、苦肉の策として2018年6月の開花の内、11月末に3個の種穂を採種、自宅での“里親育苗”にトライしてきました。ここでその経過観察の状況をまとめてみました。今後の参考になれば幸いです。

◎ 今まで現地“花実の森”内で実施してきた育苗活動の方法



← 種の採取
中の種が十分熟したものを探取
→ 種まき
現地の腐葉土に鹿沼土を加え育苗ポットに2~3粒ずつ植えていく



腐葉土・鹿沼土・赤玉土などの混合具合を示した名札を付けて生育具合を観察



花実の森内 半日陰の場所に置き育苗観察開始。結果的には、3年目の春に発芽してきたものの、夏の水やり不足、日照過多、雑草の繁茂などにより消滅。残念！



◎花実の森内での育苗はあきらめ、2018年12月から“里親育苗”として自宅での育苗を試行
＝＝今回は2023年11月の里帰り苗に育つことをめざす＝＝

【種の確保と植え付け】

2018年11月末に種穂3個採種 12月初旬にポットに種の植え付け

発芽までには、ひと冬・ひと夏の土中生育を必要とするため、発芽が期待できるのは、15か月後の2020年3月頃の予定。その間も適度な水やりと、半日陰など置き場所の移動に気を配り、発芽に向けての球根生育に期待する。



2018年11月 種の確保

ひとつの花からびっしり詰まった種が入っており、その数約1,000粒くらいかな？



2018年12月種まき

ここでも腐葉土、鹿沼土、赤玉土などの混合分けをした土をポットに入れて種まき、その生育状況に差があるかを観察してみる。

ポットの数=65個

植えた種の数=65×3~4粒≈250



【樹木下など半日陰に置き生育観察開始】
【2018年12月から16か月(3年目)を経て発芽した後の生育管理】

【2020年3月(15か月経過)発芽に成功】



当然ながらどの種も1枚葉

15か月を経た2020年3月、待ちに待った【発芽】に“待ってたよ”と歓迎。
(発芽率=1ポットに1~2本の発芽で約50%) 自然界での発芽率数%に比べて
ダントツに高い率 やはり人の管理の手が届くと育ちも良いということ)
その後も適度な水やりと、木陰など日照場所を考えながら「なるべく自然な環境生育」を目指すことに。

【2022年5月~8月(種植えから2.7年=33か月経過】



この頃から少しずつ成長に差が表れ始める。早いものは茎をもち、葉も2,3枚つけてきた。

【2022年11月(種植えから丸4年 球根の植替え】

種を植えてから4年(48か月)が経過し、球根もそれなりに育っているものと判断、今後の球根の生育を考え植替えをすることを決断。種植え後初めて球根を掘り出してみた。



植替え前の様子
球根を残し、葉は枯れ落ちた状態



掘り出した球根は土を落として水洗い後しっかり消毒
3cm球=3個 2cm球=15個 1cm球=30個
1cm未満球=50球



3cm球=3個の鉢に1個ずつ



2cm球=16個のポットに1個ずつ



1cm球=16個のポットに2個ずつ



1cm未満球=ばら植え

さあ 来年の春にはどんな姿で芽生えてくれるかな?

【2023年4月 6年目の生育状況】球根を植え替えて最初の春



しっかりと全数が芽を出してきた。ただし、生育の度合いはかなり差があり、まだ一枚葉のものから茎を伸ばし葉を3~4枚付けたものも多い。



6年目だというのに今年もまだ一枚葉のままの苗もあり。新しく分岐して育ってきたものかな？



いちばん成長の良いものはつぼみをつけている株が2本あるのには驚いた。

その2本も6月2日に1輪開花、6月6日にもう1輪開花。感激の対面です。来年は30~40輪が期待できそうなので、今年の11月に故郷の花実の森に里帰りの植替えを予定しております。



元気に育て里子のササユリたち。